

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		02 08 08	中期総合計画主要施策番号		4-03	担当課	部・課	企画部 生活文化課	
事業名		文化施設芸術文化普及事業					内線	2846	
							E-mail	seibun@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・県民に優れた音楽、舞台芸術等の鑑賞機会を提供し、文化芸術の裾野の拡大と振興を図る。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・貸館による公演(商業ベースによる公演)は、採算の取れる一部のジャンルのものに限られ、多彩な音楽、舞台芸術に触れる機会が県民に提供されない。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・貸館による公演は、採算に合わないで開催されない。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・鑑賞機会の創出、文化芸術の普及啓発・育成などのために、文化会館の指定管理者が行う自主事業を支援する必要がある。							
	事業内容	県立文化施設の指定管理者が行う自主事業に要する経費の一部を負担する。 ・県民文化会館のウィーン楽友会館との姉妹提携事業(24,000千円) ・伊那文化会館のオペラ公演(5,000千円) ・信濃美術館のギャラリーコンサート(500千円) ・その他指定管理者が行う自主事業に対する補助(補助率1/2以内)							
実施期間	H2 ~	根拠法令等		文化芸術振興基本法					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	指定管理者に多彩な自主事業の実施を促し、鑑賞と参加の機会を広く県民に提供する。		多彩な自主事業の実施により、鑑賞・参加者数を過去2年間の平均76,488人程度とする。			鑑賞・参加者数は73,186人と、判定基準を若干下回ったが、広く県民に鑑賞と参加の機会を提供できた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	16,807	36,807	11,100	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	16,251	32,835	-	実施方法	負担金、補助	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	0	0	0	歳出節別内訳等	・負担金: 26,797 ・補助金: 6,038 (単位: 千円)	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.01	0.01	0.01			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	16,322	32,906	11,171			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	自主文化事業の実施数(6館計)		事業	142	143	140			
	鑑賞者・参加者数(自主事業6館計)		人	77,273	73,186	73,000			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・優れた文化芸術の鑑賞機会の提供、地域文化の発掘・育成・支援、未来を担う青少年への教育普及活動など、文化芸術振興のために県立文化施設が果たす役割は大きい。 ・18年度から指定管理者制度を導入し、管理者により積極的に自主文化事業が企画・実施されている。 ・県の財政支援の方法を見直し、21年度の補助金を廃止した。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括		・引き続き、本県の文化芸術振興のために、積極的な自主文化事業の実施を求めていく。						